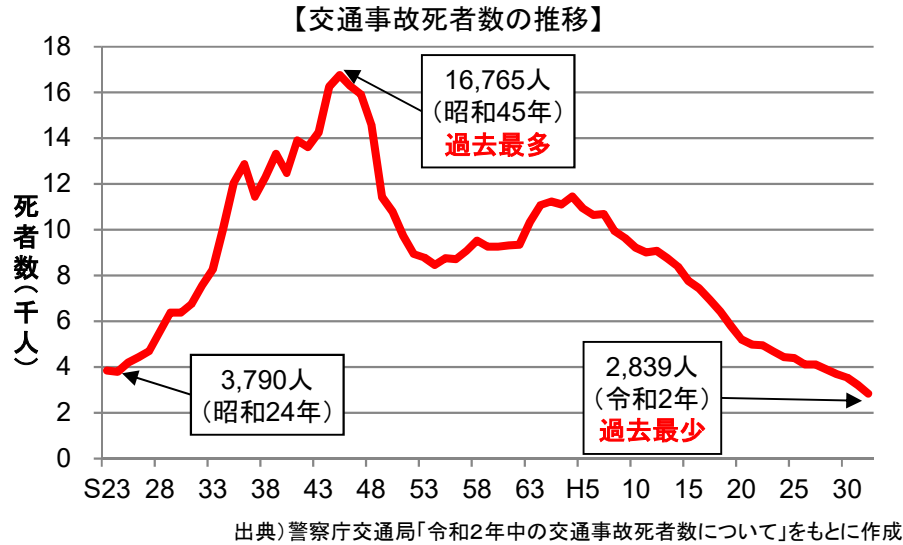
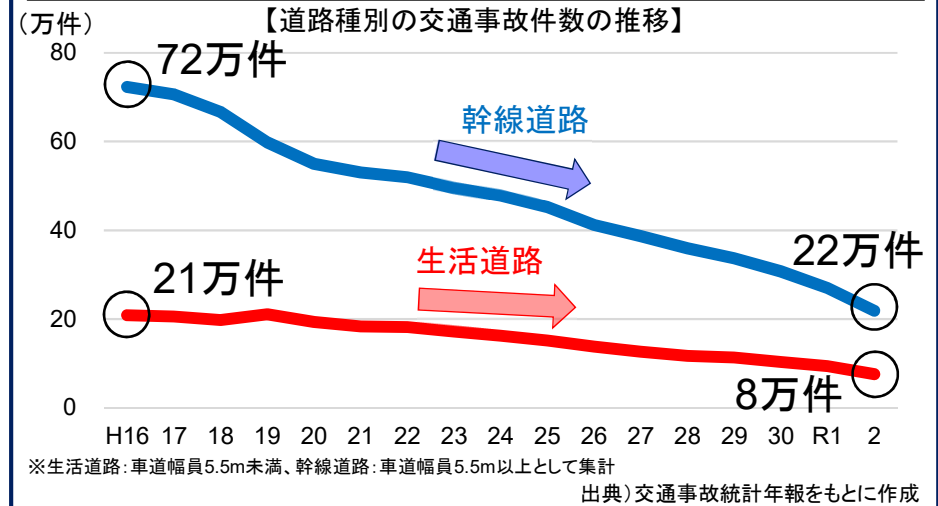


交通事故の現状

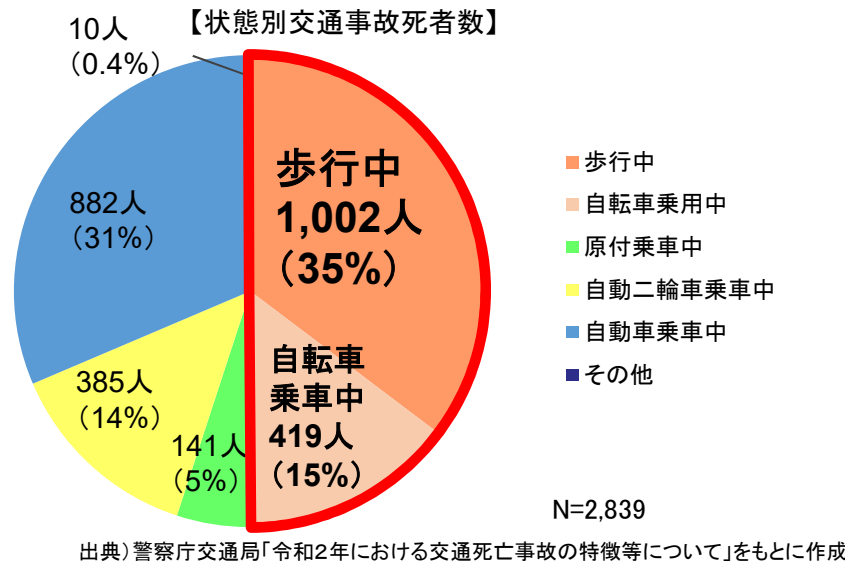
■交通事故死者数はS23年以降の統計で最少



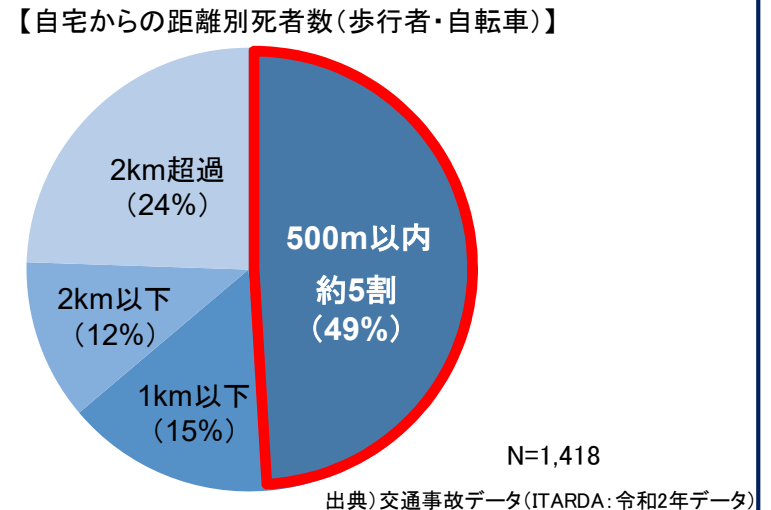
■幹線道路に比べて生活道路の死傷事故件数の減少幅は小さい



■歩行中・自転車乗車中が死者数全体の約半数



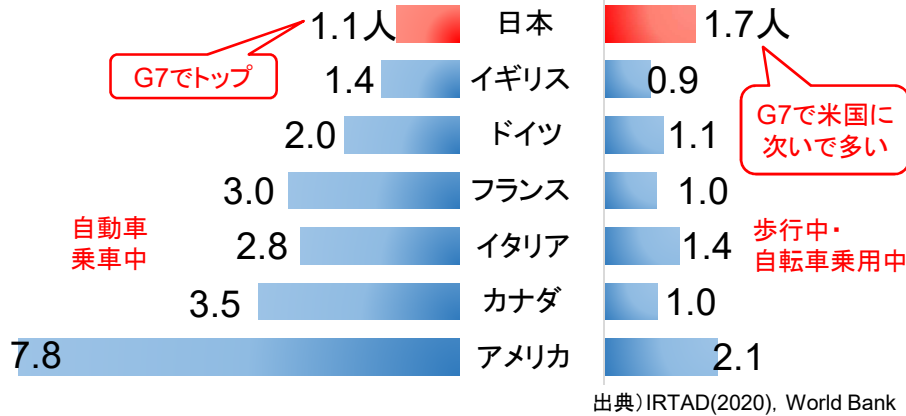
■歩行中・自転車乗車中の死者数の約半数が自宅から500m以内で発生



交通事故の現状

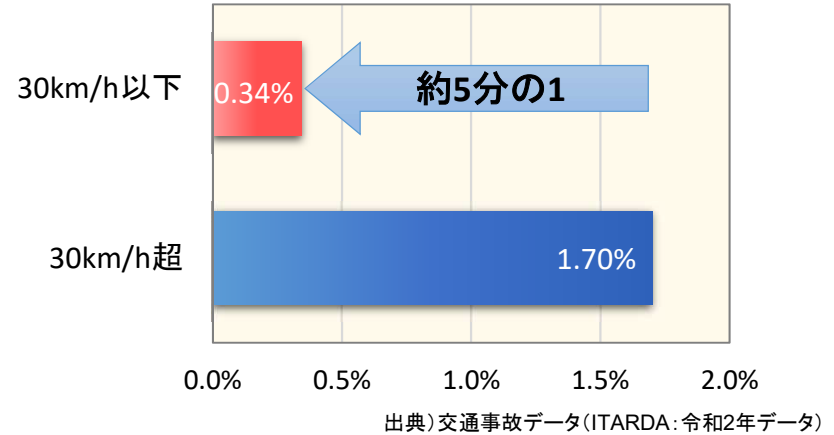
■G7で自動車乗車中は最も安全 歩行中・自転車乗用中は米国に次いで多い

【人口10万人あたり交通事故死者数の比較】



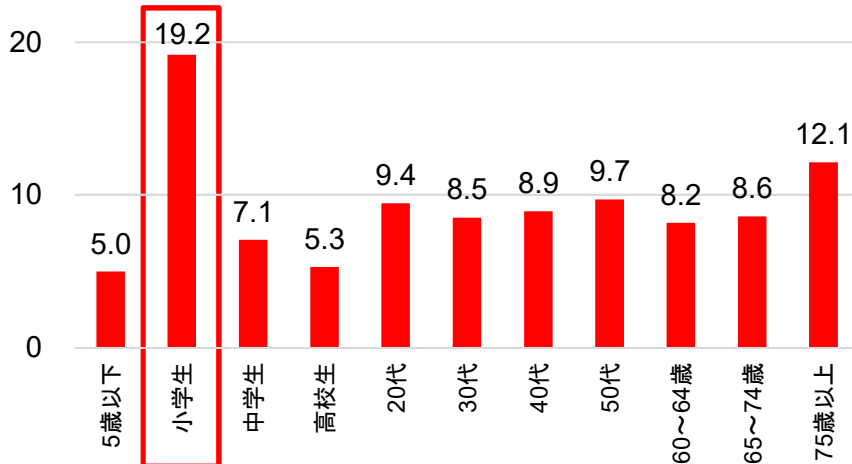
■衝突速度が30km/hを超えると致死率が急激に上昇

【生活道路の速度別の死亡事故確率】

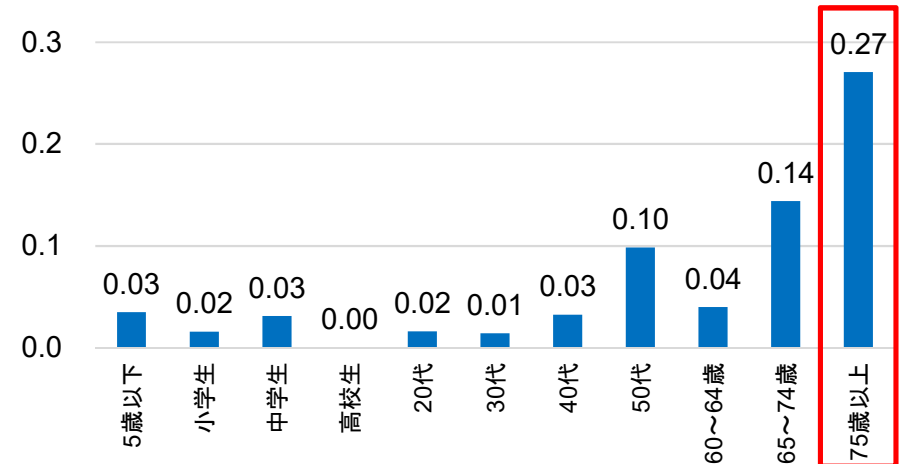


■生活道路の人口あたりの事故件数は、死傷事故件数では小学生、死亡事故件数では75歳以上が高い

【人口10万人あたりの年代別死傷事故件数(令和元年)】



【人口10万人あたりの年代別死亡事故件数(令和元年)】



出典) 交通事故データ : 交通事故データ (ITARDA: 令和元年データ)
※全道路における幅員5.5m未満の対車両事故を集計
 ※年代は、2当当事者の職業(小学生、中学生、高校生以外)を集計
 小学生、中学生、高校生の人口 : 文部科学統計要覧(令和2年版)
 小学生、中学生、高校生以外の人口 : 総務省統計局HPの統計データ(人口推計)